

(ACKU Home Page: First Ascent)

CHILE-JAPAN JOINT EXPEDITION TO CHILEAN CENTRAL ANDES-1960  
(60th Anniversary Review)

	記事 (Documents)	ページ (page)
<b>A</b>	[HPアップ記事(posted article)]* 日チ合同チリ中央アンデス遠征から60年によせて ACKU News 45/Feb., 2021, p36-46	2-12
<b>B</b>	60th Anniversary Review of Chile-Japan Joint Expedition to Chilean Central Andes-1960* (Summary of ACKU News No. 45 article)	13-15
<b>C</b>	<b>I</b> [HPアップ記事に添付]* 登山写真集 (Climbing Photo Album) As for English captions, please refer to Document C- II	16-28
	<b>II</b> List of translated Captions (English) for Climbing Photos, Chilean Central Andes, 1960*	
<b>D</b>	Chilean Central Andes, 1960, JAC Journal (Sangaku), vol. 56 (1961) Japan Alpine Club* (outline)	29-30
—	[リンク記事] (Link article to outside source) → チリ中央アンデスの山々—第2次日本・チリ合同遠征(1960年) 日本山岳会「山岳56年」(1961)	<a href="http://jac.or.jp/sangakuhensyuu/1961optimisation.pdf">http:// jac.or.jp/ sangakuhensyuu/1961opti misation.pdf(pdf #158-181)</a>

Note:Files\* are posted in **First Ascent** of ACKU HP hereunder.

Exp 60 チリ中央アンデス遠征に関する紹介記事がACKUの本ホームページ “Visitor”に  
あります。ご参照下さい。

An introductory guide on Exp 1960 to Chilean Central Andes is presented in ACKU' s  
website “Visitor(E)”, to which your kind reference would be appreciated.

## 日チ合同チリ中央アンデス遠征から 60 年によせて

豊田 寿夫

## 1. はじめに

今回の 60 周年では本遠征の正式報告書である日本山岳会“山岳”56 年誌の記事全文とカラーズライド約 60 枚を ACKU/HP にアップし、遠征隊の帰国直後に会誌“山と人”5 号 (1961 年) 及び“山と人 100 年” (2015 年/上巻) に報告した遠征記録を別の形で若手会員の方々に見てもらう機会を作った。

また、この 60 年間にチリ側で合同遠征が実施した登頂・踏査の成果がどのように中央アンデスの地理の解明に役立ったかについても調べることができた。チリでは 1974-94 の 20 年間に陸軍地理院 (Instituto de Geografía Militar:IGM) から中央アンデスをカバーする 5 万分の 1 地図が順次発行された。また、今世紀に入ると民間の登山家が参加した“山名プロジェクト”が編成され、各種の登山記録を整理して数次にわたるプロジェクトの調査活動の成果をまとめ、IGM の山岳地図作成への提言をおこなっている。1960 遠征の対象山域関連では 28 葉の 5 万分の 1 地図と付表が Net 上に公表され、中央アンデスでの 3 山行の登山活動の成果としての初登頂の記録に関わるものに限っても、8 座の山名が新たに発行された地図に記載されたことが確認できた。本稿ではその詳細を報告したい。

今回アンデスに連なる南米 7 ヶ国の共同作業として、外国人を含む各登山隊が初登時に命名して該当国の登山地図等に記載されている山名の見直し計画があるとの報道をキャッチした。チリの場合は陸軍地理院(IGM)も参加した“政府[地理]機関”が中心になって検討中との情報があり、同国出身の登山家 E. エチェバリア氏が 2020 年 4 月に出版した“The Andes<sup>1)</sup>”に収録されリストから同機関が検討を進めているというパタゴニアを含むチリ・アンデス全域の山名に関する改名案の概要を知ることができた。

この関連では、まず我々の 1960 年合同遠征の成果は IGM が検証・編集し、チリ中央アンデスの現行の地図に記載されているのであるが、それらが同氏の紹介した機関の改名計画の中でどのように扱われているかを調査する。それぞれの山名について The Andes<sup>1)</sup>の記載リストの内容を比較し、政府[地理]機関が進めているといわれる改名案の問題点を検証したい。

一方、E. エチェバリア氏が自著で公表した改名検討案はアンデスに連なる南米 7 ヶ国全域に及ぶもので、チリに限ってみると情報の出所も公表されておらず、チリ政府の担当部署もはっきりしていない(同氏からの手紙では、チリの場合の政府[地理]機関とは“IGM を含む組織”となっている)。この点については同国の山岳関係者から得た情報を後記する。

本稿は 1960 年の日チ合同遠征 (故太田直之 L、故丹波 洋及び豊田寿夫) の関連報告であるが、現地での登山活動とその記録は山岳 56 年誌及び山と人 5 号を参照願う。ただ、その第 3 山行のコロラド谷では当時は対象山域の概略地図<sup>2)</sup>だけしかなく、登攀活動はもとより馬方の案内で BC を移しながら実施した移動経路についても十分な記録を残せていない。今回入手できた新しい 5 万分の 1 地図上で当時のキャラバンを再現し、登った山塊が後になってアルゼンチン領にくだり込んでいたとの理由で、登頂記録を放棄せざるをえなかった山峰 (Co. Expedición) の扱いについては本稿末尾の [補注 A] で詳述する。

## 2. 遠征の成果とその公表—地図上の表示

## 2-1 山名プロジェクト

1975 年から 20 年間にチリでは陸軍地理院 (IGM) が 5 万分の 1 地図を順次発行したが、主要峰の山名が記載されていないものが少なくなかった。2002-04 に調査委員会が発足し、山名プロジェクト (Proyecto Nomenclatura) の登山家を中心にメンバー (リーダーはドイツ人遠足クラブ代表 U. ローバー及び A. ビバンコ) が参加した。この山名プロジェクトには E. エチェバリア (The Andes の著者)、K. クラウゼン (1958/60 日チ合同遠征参加) 及び F. ロハス (1960 遠征メンバー) 等が加わっていた。

本調査委員会は第 1 期分として中央アンデス (図表 1 の範囲の山域) について調査し、IGM 発行の 5 万分の 1 地図の作成に貢献した。その後の第 2 期 (2007-09) でも主要山岳団体が協力し、チリ中央アンデスをカバーする領域 (南緯 32°31'—35°10' と太平洋岸及びアルゼンチンとの国境線に囲まれた領域) の 5 万分の 1 地図 28 葉が 2012 年 1 月から IGM によって順次発行された。

## 2-2 “Andinista 地図”の発行

前項で紹介した IGM 発行の中央アンデス分 5 万分の 1 地図の検証には、山名プロジェクトに参加・活動したメンバー達が所属したチリの有力な山岳団体 (Perros Alpinos) から、それぞれの掲載山岳の要目 (位置や高さ) を抽出してリストアップした付表 (Excel 使用) と共に、中央アンデス 5 万分の 1 地図

全 28 葉の登山者用“*Andinista* 地図”(2012 年 1 月版)として上記山岳団体 HP に一括掲載されており、登山者他の希望者は無料でダウンロード可能である<sup>3)</sup>。28 葉の地図番号と山域での位置付けは図表 1 に示す。また、*Andinista* 地図全 28 葉(付表なし)は Google 関連の HP に一括集成版としてアップされている<sup>4)</sup>。

なお、ここで使われている *Andinista* とは、独仏英等の ‘Alp’ から生れた *Alpinist* に対比した用語で南米ではアンデスを登る人、すなわち登山家の意味で使われている。

これらの地図各葉には登山用であることが明記され、山名プロジェクトの代表を務めた 2 人(内 1 人は A. ビバンコ氏/本稿 4 項参照)の名前が印刷されている。政府機関である IGM が地図の Net 上での無料掲載との交換でアンデスの地理情報を吸い上げようとする意図が読み取れる。

### 2-3 遠征記録とその公表

1960 年 4 月合同遠征の 3 山行を終えた時、それぞれの山行の入山リーダーは各パーティの記録を確認し、両国の派遣元に持ち帰った。*ACKU* では登山記録は会誌山と人第 5 号に掲載され、その内容を踏まえ日本山岳会 56 年誌(1961)に投稿された(今回の遠征 60 年記念では HP に関連写真約 60 枚と共に全文をアップした)。一方、チリ側では各山行のリーダーの提出記録はチリ山岳連盟(*FEACH*)に提出され、現在では傘下の山岳団体の HP に公表されている。これらの両国に残る記録類をまとめたのが、本稿末尾の総括表の左欄(1)「遠征登頂記録」である。

なお、遠征の山行記録にもとづく要目(正式山名、位置や高さ等)のチリの IGM 地図への記載内容の確認は、今回の *Andinista* 地図の入手により初めて可能になったのである。本稿では遠征の成果(初登頂)として公表されている 8 座の要目を同地図の付表<sup>3)</sup>から抽出し、図表 2 に集約・掲載した。

我が国ではチリ国との協定で国会図書館に同国の地図が届いているが、対象は 15~50 万分の 1 等の一般地図に限られ、登山用の 5 万分の 1 地図は同館には所蔵されていなかった。

北限:32°30'		Rio Rocin (範囲外)		
	E-038	E-039	←第3山行	
	E-045	E-046		
	E-052	E-053	E-054	
Santiago (首都圏)	E-059	E-060	E-061	第1山行
	E-067	E-068	E-069	
	E-076	E-077	E-078	
	F-007	F-008	F-009	
F-016	F-017	F-018		
F-026	F-027	←第2山行		
F-036	F-036	注: 網掛け図の名称は総括表参照		
	F-044			
	F-063	南限:35°10'		

山行	記載地図 (図表1)	山名(Co)	高さ(m)	位置		備考
				緯度(S)	経度(W)	
I	E-045	Kobe	5067	33°29'55"	69°56'48"	
II	F-017	Alto Cotón Norte	4086	34°29'36"	70°21'24"	
II	F-027	Cotón	4292	34°30'41"	70°21'34"	
II	F-027	Chile Japtón	4186	34°34'44"	70°22'38"	
III	E-039	Monjas	4506	32°32'00"	70°11'16"	
III	E-039	Piloto	5064	32°34'28"	70°08'56"	
III	Andes Handbook	Aguja de los Columpios del Diablo	4330	32°29'33"	70°15'50"	記載地図は R. Rocin (チリ中央アンデスの範囲外)
III	(ditto)	Torre(-ditto)	4323	32°29'57.8"	70°14'39.8"	

図表 1 チリ中央アンデスの領域と地図番号

図表 2 *Andinista* 地図要目まとめ<sup>4)</sup>

## 3. チリの山名改名案

### 3-1 南米アンデス 7 ヶ国の動向

E. エチェバリア氏はその著書 (*The Andes*<sup>1)</sup>) でチリ政府当局が国内のアンデス山域の山名の適切性を調査し、必要に応じて改名を検討中であると報じた。これはアンデスに連なる南米 7 ヶ国の共同事業で、無秩序に、場合によっては該当地域に古来より根付いた山名があるにも拘わらず登山者が勝手に命名するなど、それぞれの国の公的な地図に記載されている山名も例外ではないというもの。今回チリ政府が設置した公的機関によるその適切性の審議を経て、必要なら改名を行なおうとしているとの報道であった。

同書の付属書 A では 7 ヶ国が公表した山岳等の命名に関する共通事項(ガイドライン)を次のように紹介している:

- 1) 外来者が特定山域に入山する場合、対象山岳に既存の名前が付いてないか調査する。
- 2) 新たに命名する場合の注意事項として ①現地の住民との協議、②該当山岳の持つ特徴を考慮、③対象山岳がおかれた環境を考慮又は④土地の伝説等の取込み。

- 一3) 利害関係者の名前等は禁止（特に生存者の人名は厳禁）。但し、最近では過去に顕著な貢献のあった探検・登山家等の名前は認めるケースが出ているとの報道あり。なお、登山報告書、専門誌や単行本に掲載されていても、必ずしも山名の認定の条件になるとは限らないとのこと。

情報源は明記されていないが E. エチェバリア氏作成のリストには<sup>1)</sup>、チリ政府[地理]機関が不適切として改名の必要があるとする山名には NPUGI=Name Proposed: Unacceptable to a Geographical Institution の表記がある。1960 年遠征では 2 座 (Co. Kobe & Co. Chile Japón) がこの扱いになったと報じられている。

E. エチェバリア氏の略歴 (Evelio A. Echevarria)

チリ出身の登山家(94 才)、米国の大学院で学位をえた後はコロラド州立大で教え、現在引退して同州に住む。チリ・アンデスの近代登山の草分けの一人で登頂記録多数/同国山岳会幹部に知人多し。1950 年代の後半から Alpine Journal (AJ/英国)及び米国 AAJ の通信員を務め、ACKU の 1958/60 両遠征の AJ/AAJ 記事は同氏の投稿による。主著：The Andes<sup>1)</sup>

### 3-2 合同遠征の成果の見直し—改名の要求内容

1) 合同遠征の 3 山行で我々が初登頂に成功した 8 座の山名と現在までのチリ中央アンデス山岳史上の扱いは本稿末尾の総括表に示す。同表最左欄の(1)遠征登頂記録はチリから持ち帰り、山と人及び日本山岳会誌に公表した記録である。(2)Andinista 地図要目はチリ陸軍地理院 (IGM) 発行の地図に記載のものである (該当 5 万分の 1 地図名を下段に示す)。ただ、最下段の 2 峰 (総括表 3-③/④)はチリ中央アンデス北限から外れるため、該当する地図でなく別資料から収録した ([補注 C] 表 C 参照)。なお、(3)1960 遠征の登頂山岳の改名案については後述する。

2) 解明が必要とされた Andinista 地図 E-061 に記載された Co. Kobe について

本峰は前項で説明したようにチリ政府[地理]機関の‘NPUGI’の扱いで改名の対象と報道された。総括表の(3)改名案では Co. Loma Amarilla (高度は未確定/3 案あり)とされている。チリ陸軍地理院(IGM)が根拠にした登攀記録は AM (チリ山岳連盟 1960 年報) p71-81、初登者は K.クラウセンと H.トヨダと記述されている。別名としてアンモナイト峰 (同名の貝の化石が出た) との名前も候補にあがったが不採用だったとのこと。なお、L.リプトゥリー教授はその著書チリの雪と氷河<sup>2)</sup>で 1950 年代前半の Yeso 谷の踏査と登攀を概括し、最北部に未登で残された本峰を “Punta Fosiles(化石峰/5100m)” と紹介していた。

筆者は上記の背景を知ろうと出版社 Reidhead & Co.社長を通じ The Andes の著者に質問状を送った。2020.7.28 に届いた E.エチェバリア氏 (米国で引退中) からの情報 (原文) と同氏コメント (改名の背景) は下記のようなものであった。

(Cerro Kobe<sup>5)</sup>)

The *Instituto* does not accept foreign names for the geography of the country, therefore the name “Kobe” I could not put in my book. Years later, Chilean climbers ascended “Cerro Kobe” from the north, from the Colorado river, and the hill people told them that the real name, local, of that height or peak was CERRO LOMA AMARILLA, which means “Yellow Flanks”. Therefore, if a local or native name is found, it must be accepted by the *Instituto*.

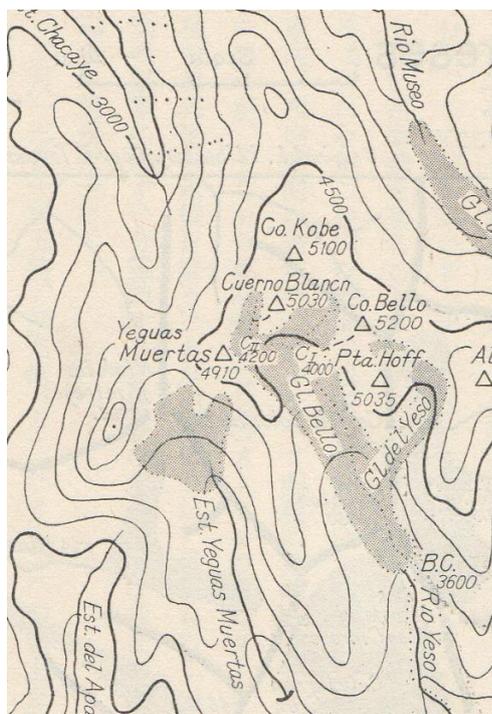
(要旨：Co. Kobe について)

かなり年月が経ってから行われたチリ人の Co. Kobe の第 2 登は初登とは反対の北側 (コロラド川) からで、流域の高地に住む人々は地元でもととの山名は Co. Loma Amarilla であったとのこと (なお、Loma は英語の planks に相当する)。チリの IGM の方針として山名は地元又は古来の呼称優先で本峰の改名はそちらになろう。

なお、首都サンチアゴ市内を流れるマイポ河の上流がコロラド川、それに連なる支流のムセオ川(Rio Museo)は南へ下る溪谷の最奥部で Co. Kobe 北面の高地につながっている。後年の第 2 登パーティはこの登路を辿って北側から Yeso 谷の Bello 氷河の源頭に達し (図表 3 の地図参照)、本峰の南東稜を登る初登時(1960)と同じルートをとったのではなかろうか (この南東面以外は東西と北面共に 700-800m 切れ落ちた岩壁で登るのは難しい)。北側の高地の人達は東からの太陽光を受けた南の側壁の状況を見て、“黄金色の擁壁”と呼んでいたのであろうか。その後の Co. Kobe の現状は [補注 B] を参照願う。

### 3-3 その他

第 2 山行の Co. Chile Japón の場合(総括表 2-③)も外国名が入っており、チリ政府[地理]機関の方針にそぐわない。改名案は取りあえず無名峰(Co. Innominado)の扱いになり、加えて第 3 山行の Co. Monjas (総括表 3-①)は “修道女の祭壇” (Co. Altar de las Monjas) への改名案があるとのこと。



Co. Kobe  
南面  
5067m  
(現在)  
写真 1

←左：図表 3 Yeso 谷源頭部 (JAC-56 年より)

1960.3.13 左図中央部 C<sub>2</sub> から C. Blanco の第 2 登の後、氷河源頭部(写真 1 右下)col に下降、同山南東陵に取り付き初登に成功したあと、col に戻りビバークした。

また、Co. Piloto (総括表 3-②)は Co. Amarillo から改名されたものである (2012 年改定の地図 E039 には Piloto が採用されている)。この山名はアルゼンチン側ですでに使われていたもので、同国では山鳥の名称とのこと。なお、同じ日に別パーティが登った Co. Expedición を総括表から削除した理由は〔補注 A〕で説明する。

#### 4. チリ山岳団体の動向

チリ山岳界の長老 A. ビバンコ氏 (山名プロジェクト代表/2-2 項参照) に K. クラウセン氏を通じ現地の動きを質問してみた (2020.8.7)。E. エチェバリア氏の著書 (The Andes) 掲載の山名の改名案に関する報道が現地の山岳団体にどのように伝わっているか、山名プロジェクト関係者の政府〔地理〕機関への関与があれば、その対応状況が知りたかったのである<sup>6)</sup>。

A. ビバンコ氏からは次の 3 点の回答があった：－

- 1) 山名プロジェクトはチリの登山家の自主的な活動が中心で、現時点ではチリ政府関連の公的な業務は行っていない。ただ、チリ国家財産管理省(MBN)は同省関連業務又は特定プロジェクトに将来山名プロジェクトのメンバーを起用する可能性はある。
- 2) チリでは陸軍地理院(IGM)が政府発行の地図上の命名権を持つ唯一の公的機関だ。
- 3) 自分の知る限り IGM が山名関連リストを作成したとは聞いていないし、また、そのような業務への志向があると感じたこともない。

ビバンコ氏のコメント：

現時点ではチリに山名に関わる公的機関はない。山の名前 (例えば Co. Kobe) はそれを使う登山家のコミュニティが認めればよく、ドイツ人遠足クラブやチリ山岳連盟年報又はその元会長の G.サンロマン氏が出版したチリ山岳史 (同峰に関する記述あり) が重要な根拠刊行物となっている。

〔筆者注〕

現役の山岳団体関係者から上記の回答を得られた意味は大きい。E. エチェバリア氏の著書には、現行登山地図に記載のある山名につき適否の判断を示す政府〔地理〕機関 (南米 7 ヶ国共通用語) という組織名が頻繁に使われている。ところが、それがどの省庁に属し、いかなる機能を持った組織なのか明確になっておらず、同氏の個人的な見解がまぎれ込んでいないか危惧される項目もないとは言えない。

加えて同氏は引退して現在は居を米国コロラド州に構えているのである。我々としてはチリの現地から届いた A. ビバンコ氏の情報と合わせて考える必要がある (特に、両氏の間で意見の分かれる IGM 等チリ政府機関の関与について)。

## 5 まとめ

今回の遠征 60 周年を機に 1960 年のチリ中央アンデスの 3 山行の成果を同国陸軍地理院(IGM)が発行した 28 葉の登山地図を入手して検証した。また、アンデスに連なる南米 7 か国が開始した山名の改名プロジェクトの関連では、チリにおける取組状況(改名案の暫定リスト等)を入手し、合同遠征(1960 年)参加の存命リーダーの協力を得て調査し、比較検討した。

過去 60 年間に起こった変遷、すなわち我々が入り込んだチリ・アンデスの未踏査山城の測量が進み、同国政府の専門機関により 5 万分の 1 の登山地図となって同国の登山家により使われている過程は本稿末尾の総括表に見るとおりである。ただ、ACKU が実施した当時の同国への 2 つの遠征は日本側が登山装備を持ち込み、相手方は現地での全費用を賄うという特異な形態で実現したものである。このような登山形態が許され、登頂山峰には好き勝手な名前をつけるといった社会条件は今や昔の話である。

現在の同国の社会情勢からして適切でないと言われる山名は確かに散見され、我々が登った山城にも限定的ながら残っている。ただ、南米 7 カ国の共同事業とはいえ政府機関発行の地図記載の山名がそう簡単に変わるのかと頭をかしげる同国の山岳関係者も少なくない。

登山に使われている現行の 5 万分の 1 地図作りに参加した山岳界の同国の長老達も同意見である。1960 遠征の成果を盛り込んで命名された山々の名前が今後どう変わるか見届ける必要があろう。

今回、1960 年の日本チリ合同遠征を振り返るにあたっては 1958 年のパタゴニアの登攀隊員であり、1960 年には第 1 山行リーダーを務めた K. クラウセン氏が存命で本稿作成にあたっては全面的な協力をえた。また、資料の収集等では P. K. クラウセン教授(同氏の甥/カトリック大学)におうところが多かった。両氏の協力に感謝します。

### エピソード

筆者のアルバムにはチリからの出国前にもらった山の写真 1 枚が残っている(写真 2)。これはゴンザレス兄弟の Co. Cuerno Blanco(当時 5200m/1952.1.20)の初登とその時 Yeso 谷の源頭で発見した未踏峰(後に Co. Kobe と命名)のことを伝える伝書鳩を放つショットである。写真には筆者宛の言葉と Ociel というサイン(1958 年のパタゴニア遠征の時チリ側の推進役だった同兄弟の若い方)がある。

我々の山行はこのように 1958 遠征で芽生えた

同国関係者の友情と信頼関係に支えられて登山を行ったのである。1960 遠征では、その 8 年前に見つけて温存してくれた未踏の無名峰に登り、頂上では大学の所在地の名前を付けさせてもらった。登った山々の名前はチリ国の首都の裏山の地図にのこり、この半世紀を越す期間を通じてパタゴニアを含む二つの遠征に参加した両国クライマーのよい思い出となっていた。これが同国の事情で改名されようと、それはそれでよいことではなかろうか。

## 参考資料

- 1) The Andes: The complete history of Mountaineering in High South America by Evelio A Echevarria, Reidhead Publishers (April 1, 2020)
- 2) Nieves y Glaciares de Chile, L. Lliboutry, Chile Univ.
- 3) Grupo de Motana Perros Alpinos (Proyecto Nomenclatura)  
<https://www.perrosalpinos.cl/proyectonomenclatura.html>
- 4) <https://drive.google.com/drive/folders/0Bw3QzFTcgU8pcGNjNVFCUTZpZVE?usp=sharing>
- 5) Evelio A Echevarria への質問状と回答(2020.7.14→7.29)
- 6) 山名プロジェクト(P. Nomenclatura) 統括者への質問状と回答(英文/2020.8.7→8.31)



(写真 2)

## 〔補注 A〕 登山活動に関する補足—第 3 山行について

### A-1 当時の事情と計画変更

帰国の船便の出航日が繰り上がったこともあり、コロラド谷の山行スケジュールを圧縮せざるを得なくなった。広大な対象山域を定着 BC から放射状にアタックするという計画ではなく、入山キャラバンのあと 2 人の馬方に馬・ラバ 24 頭を連れて BC に残ってもらい、高所キャンプ(AC)への移動の機動性を高め、そこからのアタックの効率を上げようという登攀計画に変更して実施することになった。キャラバンを含む全行程は図 A を参照願う。

なお、当時入手できた山域の資料はリプトゥリー教授の著書(本文の参考資料 2)の付属地図(25 万の 1 相当)であった。先行して入山した 2 つの山域では同書中に地図や解説があったが、本山行の対象領域では皆無だった。牛馬の放牧や観光・交易をやっていた地方の馬方達の経験に頼らざるを得なかった。

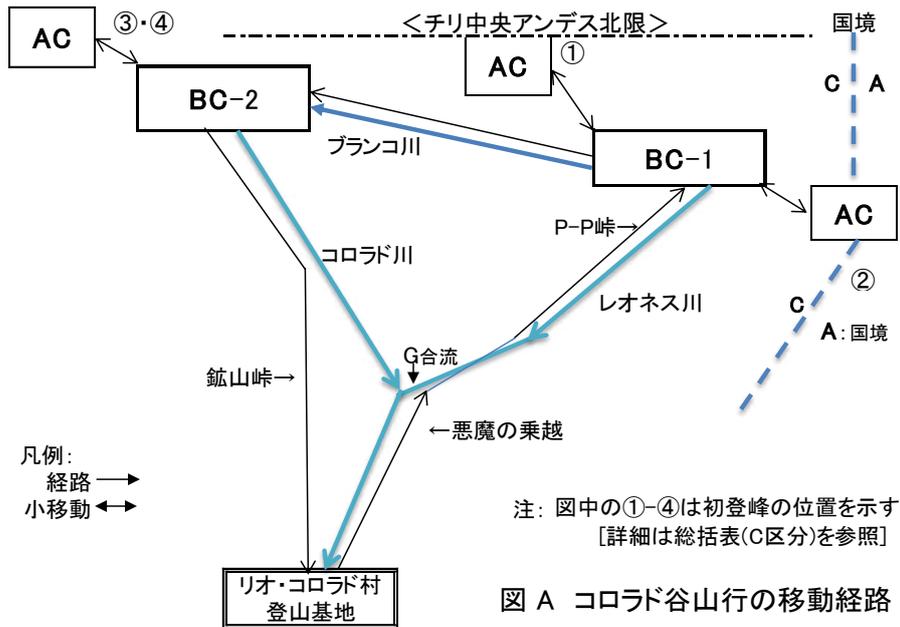


図 A コロラド谷山行の移動経路

### A-2 入山 (→詳細は図-A を参照)

リオ・コロラド村はずれの馬方マニュエルの家を 1960.3.20 に出発したキャラバン隊の初日は Agua Tibias での野営、第 2 日目からは Rio Colorado 川を遡行し El Guanaco 合流点近辺で Paso del Diablo (悪魔の乗越) という難所を通過 (これまでは図表 1 の地図 E-045 の領域)、支流 Rio de los Leones 川流域(地図 E-039)に入り、Quebrada Alisle 谷出合の草地(Vega de Aliste)で野宿した。

第 3 日目以降 (3 月 22-23 日) はアルゼンチン国境の Leiva 峠つながる道を辿った[このトレールは地図(E-039)に残っている]。野営地から約 15km 進んだところで東から合流するカニヤダ川と別れ、ほぼ真北に向かうレオネス川溪谷の左岸を遡行した。溪谷の最奥部では左岸を高巻きして 3000m を越す高地帯に到達し、Portezuelo de Pedro y Pablo 峠に至った。ここからキャラバンは北方に下り、Rio Blanco 川流域を東進して最後の草地(vega)に BC-1 を設置した (1960.3.23)。

#### A-2 BC-1 での登攀活動

##### 1) 太田・豊田パーティ (国境稜線上に AC を設置、3 月 24-26 日間は馬方を待機させる)

1960.3.25 Portozuelo Rio de los Indios 峠に設置した AC からボカス中尉・太田(西隊)とガンボーア伍長・豊田(東隊)の 2 パーティが西と東の国境上のピークを登るため出発した。東隊にいた筆者は目標の Co. Expedición の頂上はまだ東にあり、そこまでは達していないと感じながら当日は時間切れ(15:10)のため引返し、AC 帰着は 19 時であった (→詳細は A-4 項参照)。

##### 2) 丹波パーティ

同じ日程で BC を出発した丹波パーティは Co. Monjas (Altar より改名/総括表 3-①)の西尾根の末端に AC を設置、翌 25 日 Co. Monjas を東尾根からの初登に成功、その日のうちに BC に帰着した。26 日は国境の Paso de Leiva 峠から Nevado de Leiva 峰(4649m)の第 2 登を行なった (写真 A-1/2 参照)。



写真 A-1 Co. Monjas

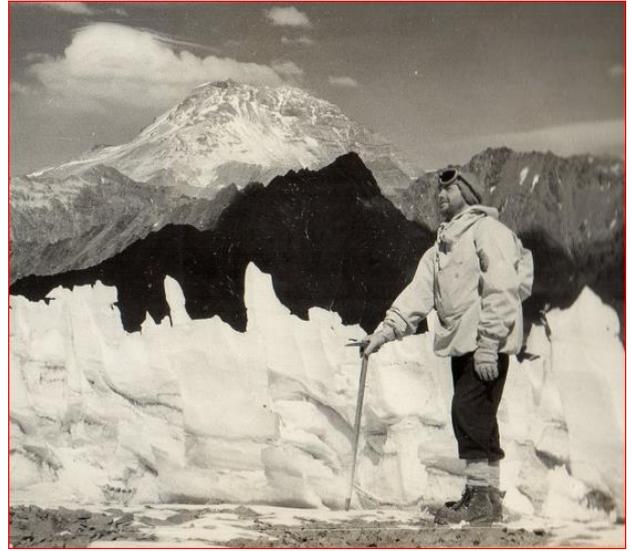


写真 A-2 国境から見たアコンカグアと G.ミルス L

### A-3 BC-2 での登攀活動

1960.3.27 は Rio Blanco 川を下り、西進して Rio Colorado 川の上流域に入り、7-8km 南下して Estero Tordillo 川出合の草地に BC-2 を設置した(地図 E-038 の東北コーナー)。翌 3 月 28 日には Columpios del Diablo 双峰の中間部に AC を設置し、29 日太田・丹波パーティは Aguja 峰(北峰)、チリの Mills 他パーティは Torre 峰(南峰)の初登に成功した。

3 月 30 日 BC-2 を撤収して帰路キャラバンを開始、Rio Colorado 川縁で野営した。翌 31 日は同川右岸の高巻に入る。荷物用のラバが転落するなど難路の連続で、翌 4 月 1 日になって高巻を終えて道もよくなり、18:00 に Portezuelo de los Minas 峠 (3335m) を通過、21:00 に Rio Colorado の村外れで野宿し、翌朝 4 月 4 日は 1 時間ばかりで同村の登山基地マヌエル家でキャラバンを終えた。BC-1 まで 45km、BC-1 → BC-2 の横移動に加え両 BC からの各 AC 往復等は 25km に達し、BC-2 からの帰路の 50km を加えれば約 120km の馬上の旅だった。

### A-4 Co. Expedición の扱いについて

総括表からは日チ両国の遠征報告(山と人 5 号)にあった本峰が削除されている。本峰の登攀は 1960.3.26 アルゼンチン国境上の AC キャンプから筆者を含み、J.ガンボア伍長をリーダーとする 3 人パーティが登ったもので、チリ側の報告書にも詳細記録が残っている。

ところが、後になってわかったことは、この山は西峰(当時 5126m)、主峰(同 5173m)及び東峰(同 5100m)の 3 峰で構成され、我々が登ったのは国境稜線に一番近い西峰であったことが判明した。この西峰に関する E. エチェバリア氏の説明は: it is not a Cerro or mountain proper. It is only a subsidiary summit, located on the borderline, and an extension of the great Argentinian peak(本文参加資料 5)。

すなわち、日チ合同チームが登ったのはアルゼンチン領内にある大きな山の国境稜線上にある西峰だったと言っている。また、地理学会(英国)の J. Neate 氏も 1994 年にほぼ同じことを発表していた: Inside Argentina the party made the first ascent of the north-west summit of Co. Expedición. The main peak is farther east, reachable via an ice ar^te, but was not climbed for lack of time “Mountaineering in the Andes”, RGS-IBG Expedition Advisory Centre, 2<sup>nd</sup> Ed., May, 1994.

アルゼンチン領内にある 2 つのピークの 1 つ(東峰)はブラジル登山隊により 1982 年に登られたことからブラジル峰と命名しようとしたが、同国の政府[地理]機関が受け付けず、現時点では Co. Alma Blanca (白い人)/5170m との山名が検討されているとのこと(本文参考資料 1)。チリ陸軍地理院(IGM)の Andinista 地図の解説にも、アルゼンチン側では主峰は“憲兵隊本部付騎兵 27 中隊記念峰”また東峰は“ブラジル峰”と呼ばれたこともあるとの解説あり。

上記のように Co. Expedición の扱いは 3 ピークの一部が国境に接するため、二つの国の間で複雑な経緯をたどったようだ。日チ合同登山隊に同行・越境したリーダーが現役のチリ陸軍軍人、それも国境警



## B-2 その他

図 B に示すようチリの山岳界には IGM 作成の Andinista 地図が定着し、例えば Co. Kobe の場合でも最新の高度が明記されている。ところが E.エチェバリア氏が改名案の中で示す該当山岳の要目(例えば総括表右(3)欄)は最新化されておらず、同氏が公表した改名案といわれるものはチリ政府の IGM 等によって構成された正式な機関の審議を経て出されたものなのだろうか。

このように改めて問題になるのが E.エチェバリア氏の言動である。その後の調査で同氏の執筆になるチリ中央アンデスの登攀史の記事(2011 年)に“Loma Amarilla 5100m”との記述がみられる。本文 3-2 項で紹介した同氏の説明では、第 2 登者が現地住民から聞き出したのがこの新しい山名であったはずだ。ところがアンデス・ハンドブック社の資料では本峰の第 2 登チームの存在がはっきりしていない。この状態で、その参加メンバーが現地で聴取したという特定の山名を挙げて改名案を論じるのは適切だろうか。

Yeso 谷は同国首都圏(Región Metropolitana)の裏山に位置し、Co. Kobe 山塊は我が国の東京圏なら群馬県の上越国境に対応しよう。いわば谷川岳にチリの海都 Valparaiso の名前をつけるようなもの。同国には首都の背後に外国名の山があることに違和感を持つ人達が少なくなく、エチェバリア氏もその中の一人だったのではなからうか。

なお、アンデス・ハンドブック社 HP の参考資料(Referencia)に挙げられた 3 件共 ACKU 山と人 100 年誌(上)チリ中央アンデス記事で説明済みである。最後の資料\*は K.クラウセンがドイツ人遠足クラブ会誌(DAV1960-61)に発表した独語記事を今回ビバンコ氏が西語に翻訳、写真を加え Net 上に公表したものである。合同登山の仲間である ACKU の紹介記事もあり、その中にはパタゴニア遠征の先輩達が送ったと思われる山と人 3 号の口絵写真から複写したのか、“日本アルプス”の登山として 1957 年 11 月の秋山で北穂滝谷の第 1 尾根を登る山内純二を確保する青木秀哉の姿が映っている。

—\* <https://www.dav.cl/2020/12/expedicion-chileno-japonesa-a-la-cordillera-central-traduccion-del-articulo-publicado-en-1961/>

## 〔補注 C〕 1960 年遠征の初登頂山岳の現状

日チ合同チリ中央アンデス遠征の成果(初登頂 8 座)の現状はチリ側ではアンデス・ハンドブック社 HP に掲載の“Montanismo”シリーズに掲載されている(2 座は準備中)。C 表には掲載 6 座へのアクセスを示した。準備中の 2 座に関しては別の HP にアップされている当時の報告書が参考になる。

なお、A.ビバンコ氏(本文 4 項前出)は A. ハンドブック社の創設者の一人でもあり、表 C の 3-②項の作成に当たっては同日登ったが国境問題で未確認になっている〔補注 A〕A-4 の調査も依頼した。

表 C 1960 遠征登頂山岳の現状

山行	山名と高度	Andeshandbook社“montanismo”シリーズへのアクセス	参考
第1 (Y)	Co. Kobe 5067m	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/414/Kobe">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/414/Kobe</a>	(改名案あり)
第2 (R)	① Co. Alto Cotón Norte, 4086m	Andeshandbookには未収録である。チリ側リーダー報告“Expedición Chileno-Japonesa Andes Centrales 1960”第2部(Etapa II-Río Cipreses/1960.3.12)に公表されている。 <a href="https://www.perrosalpinos.cl/RH-chilenojaponesapartedos.html">https://www.perrosalpinos.cl/RH-chilenojaponesapartedos.html</a>	(準備中)
	② Co. Cotón 4292m	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/944/Coton">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/944/Coton</a>	
	③ Co. Chile Japón 4186m	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/1078/Chile Japon">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/1078/Chile Japon</a>	(改名案あり)
第3 (C)	① Co. Monjas 4506m	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/267/Altar de las Monjas">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/267/Altar de las Monjas</a>	(改名案あり)
	② Co. Piloto 5064m	Andeshandbookには未収録である。チリ側リーダー報告“Expedición Chileno-Japonesa Andes Centrales 1960”第3部(Etapa III-Río Colorado/1960.3.25)に公表されている。 <a href="http://perrosalpinos.cl/RH-chilenojaponesapartetres.html">http://perrosalpinos.cl/RH-chilenojaponesapartetres.html</a>	(準備中)
	③ Aguja de los Columpios del Diablo, 4330m	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/515/de los Columpios del Diablo">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/515/de los Columpios del Diablo</a>	N.(北峰)
	④ Torre de los Columpios del Diablo, 4323m	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/516/de los Columpios del Diablo">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/516/de los Columpios del Diablo</a>	S.(南峰)

総括表 日チ合同チリ中央アンデス遠征

(初登のみ)

山行	(1) 遠征登攀記録		(2) Andinista 地図要目		(3) 登頂山岳の改名案 (チリ政府〔地理〕機関)		頁 項目	山名日本訳 (日本登頂者)
	山名と高度	1960	(上段: 山名と高度)		予定山名(改名案)	The Andesの記事(含登頂者)		
第1 (Y)	Co. Kobe 5100m	2. 13	Co. Kobe, 5067m Tupungato 3315-6945/ E-061 Rio Yeso 33306945/ E-069	Co. Loma Amarilla (5100/5067/5046m to be decided)	Cerro Loma Amarilla, 5100 or 5067 or 5046 1 r.a. K. Claussen, H. Toyoda, 13 Fe 1960, AM 1960, pp. 71-81(Note: listed as Co Kobe, NPUGI & Co Amonites, NPUGI)	p762 #47	黄金色の擁壁 (豊田)	
第2 (R)	① Co. Alto Cotón Norte 4350m	3. 12	Co. Alto Cotón Norte, 4086m Rio Cortaderal 3415- 7015/F-017	Co. Alto Cotón Norte 4250m	Cerro Alto Cotón Norte, 4250m 1 r.a. A González, N. Ota, H. Tamba, 11 Ma 1960. San Román 1989, p.66	p769 #171	高コトン北峰 (太田・丹波)	
	② Co. Cotón 4550m	3. 11	Co. Cotón, 4292m Alto de los Arrieros 3430-7005/F-027	Co. Cotón, 4550m	Cerro Cotón, 4550m 1 r.a. W. Foerster, A. González, H. Toyoda, 11 Ma 1960,AM 1960, pp. 100-102	p766 #113	コトン岳 (豊田)	
	③ Co. Chile -Japón 4450m	3. 6	Co. Chile Japón, 4186m (同上)	Co. El Innominado 4450m	Cerro El Innominado, 4450m 1 r.a. As for nr. 113, but 6 Ma 1960 (Note: named Cerro Chile-Japón, NPUGI)	p767 #132	無名峰 (豊田)	
第3 (C)	① Co. Altar 4518m	3. 25	Co. Monjas, 4506m Rio Leonos 3230-7005/ E-039	Co. Altar de las Monjas 4508m	Cerro Altar de las Monjas, 4508m 1 r.a. G. Mills, G. Muga, M. Puig, H. Tamba, 25 Ma 1960,AM 1960, pp. 55-57 (Note: wildly known ocal name above. Other variations are Cerro Altar and Cerro Monjas).	p767 #121	修道女の祭壇 (丹波)	
	② Co. Amarillo 5136m	3. 25	Co. Piloto, 5064m (同上)	Co. Piloto, 5064m	Cerro Piloto, 5064m 1 r.a. J. Bocaz, H. Durand, N. Ota, 25 Ma 1960,AM 1960, pp. 110- 111(Note: firstly christened with a repetition name, Cerro Amrillo, NPUGI).	p762 #50	ピロト岳 (現地山の山鳥 の名前) (太田)	
	③ Co. Columpios 4200m - N.(北峰)	3. 29	Aguja de los Columpios del Diablo, 4330m Map: Rio Rocin/ Andeshandbook〔補注C〕	Co. Cumbre Aguja 4300m	Cerro Cumbre Aguja, 4300m 1 r.a. P. Durand, N. Ota, H. Tamba, 29 Ma 1960,AM 1960, pp. 112-114	p768 #160	尖塔峰 (太田・丹波)	
	④ (同上) - S.(南峰)	3. 29	Torre de los Columpios del Diablo, 4323m Map: R.Rocin/ Andeshandbook〔補注C〕	Co. Cumbre Torre 4310m	Cerro Cumbre Torre, 4310m 1 r.a. H. Durán, G. Mills, G. Muga, M. Puig, 29 Ma 1960,AM 1960, pp. 112-114	p768 #154	塔峰 (Chile 側のみ)	
注記	1 r.a.=1 <sup>st</sup> Ascent, AM=Anuario de Montaña (FEACH), NPUGI=Name Proposed; Unacceptable to a Geographical Institution (チリ政府〔地理〕機関は許可せず) また上表の左半分はE. Echievarria氏著のThe Andes (2020/J. Reidhead & Co発行)による (注記: 山の高度(3)は最新のものではない誤植は修正依頼済/2020.9.27).							

## 〔あとがき〕

本稿〔補注 A〕のコロラド谷報告の冒頭でも述べたよう、帰国の船の出航日が繰り上がり第3山行の登山計画を短縮して急ぎ下山したのだった。ところが、下山して川崎汽船に出港日を確認すると機関部の故障で到着が逆に3週間ほど遅れているとの。遠征期間は4月上旬乗船で神戸帰港は1960年5月末となっていた。当時の日本政府の外貨持出し規定は厳しく、我々のチリでの滞在費（入山とその前後のサンチアゴでの宿泊・飲食代）はチリ側持ちとの取決めで入国していた。これが1か月も遅れるとなれば、チリ山岳連盟に頼れないことは明白で、路頭に迷うことになりかねない状態におちいった。

できるだけ首都を離れることにし、アルゼンチンに向かいブエノスアイレスに1週間、チリ南部の湖沼地帯のオソルノ/プエルトモンテに4日間の夜行列車の旅をした。また、在住日本人の曾根家の農場に泊まり込みで滞在させてもらった。サンチアゴでの宿泊もホテルを引揚げ、日本人会館の柔道場の畳の間を使っての寝袋宿泊に切り替えた。

この間、特にお世話になったのが本保家とその親戚の朝日家である。先代の本保氏はチリで商業の分野で成功し、当時石川県小松市に引揚げられていた。同じ小松出身の太田リーダーは日本出発前に同氏にあらかじめ連絡をつけており、現地では2代日本保夫妻（夫人は朝日家出身）の援助が得られたのである。両家より度重なる食事の提供を受けたばかりか、山から持ち帰った登山用具は本保家のガレージを使って仕分け、持帰り個人用

装備の保管を依頼した。

遅れていた船の出航日が決まりバルパライソに向かう我々のために、5月4日両家の共催で矢口大使夫妻と日本人館員全員及び日本人会の主要メンバーを招いて送別会を開いていただいた。これにより、我々としては大使夫婦主催のチリ山岳連盟幹部と遠征参加隊員を招いてのバンケットへの返礼ができたことになった。なお、チリ側の遠征参加メンバーも各自の所属するサンチアゴとバルパライソの支部に分かれ送別会を開いてくれ、名残を惜しんだ。

1960年5月9日までの船待ちの35日間を日本チリ両国関係者の好意に支えられて食いつないだことになり、半世紀以上前のことになるが改めて当時お世話になった方々にお礼を申し上げたい。



サンチアゴの本保邸にて—同夫婦と朝日夫人  
(太田 L/右2人目・丹波/左端)

60<sup>th</sup> Anniversary Review of  
Chile-Japan Joint Expedition to Chilean Central Andes-1960  
(Summary of ACKU News No. 45 article )

1. Preface (p36)

This is a translated summary of 60<sup>th</sup> Anniversary Review appeared in ACKU News No. 45 (March, 2021/now posted in “First Ascent” as Document A) which was edited based on the reports published in the Centennial Issue (2015) of ACKU Journal and our article in Japan Alpine Club Journal, vol 56 (1961). This Review not only reports the results of Expedition 1960 but the ongoing climbing activities in Chile to the relevant peak.

Also detailed surveys were made on the renaming problem for the certain peaks among our first ascents which were said to be under consideration by the government-related body “Geological Institution” in line with the general guideline among seven Andes-related countries in South America.

2. Expedition results and their contribution to maps of Chilean Central Andes (p36-37)

2-1 Proyecto Nomenclatura (Naming project)

2-2 Issuance of Andinista Maps

2-3 Ascent records and their publication

3. Proposed renaming of the first ascent peaks (p37-39)

3-1 General guidelines for renaming in 7 Andes countries in South America

3-2 Renaming of the first ascent peaks (example: Co. Kobe)

3-3 Others (including renaming of other peaks under discussion)

4. Current discussions on renaming among mountaineering organizations in Chile (p39)

5. Summary, Epilogue and References (p40)

Appendix A Supplemental report on 3<sup>rd</sup> Expedition to Rio Colorado Valley (p41-43)

Note: At the time of Expedition 60 this region was unexplored and maps were hardly found. It was difficult to report our climbing activities in relation to the surrounding topographical condition. Thanks to issuance of the Andinista Maps the details of the caravan trails and climbing routes are now possible to be reported here.

A-1 Modified expedition plan (March, 1960)

A-2 Ongoing caravan and climbing from Base Camp 1

A-3 Climbing from Base Camp 2 and return caravan

A-4 Note on Co. Expedición (border problem with Argentina)

Appendix B Details of Geography in Yeso’s Upper Reaches and proposed renaming of Co. Kobe (p44)

Appendix C 8 First Ascent peaks appeared in ‘montanismo’ series of Andes Handbook (p44)

Postscript: Words of thanks to the Hombo Family, Santiago (p46)

Figures & Tables:

FT-1 3 Regions explored in Chilean Central Andes and comprising Andinista maps

FT-2 8 first ascent peaks and their principal features described in Andinista Maps

FT-3 Maps of Co. Kobe and peaks around northern end of Gl. Bello in Yeso Valley

Summary Sheet (last page of article)

- (1) Expedition records (peak name & height), (2) Andinista Map (peak name & height),
- (3) Description of “The Andes” (peak’s name proposed, height & relevant page) and Column/right (climber’s name)

< Selected References in Spanish & English >

1. Official Report in Japan (excluding those referred in the article/p40 of Document A)  
Chilean Central Andes, Japan Alpine Club (Sangaku), vol. 56(1961) (English summary is in Document D attached)

2. Official Report in Chile

Anuario de Federacion Chilena de Andinismo, Santiago (AF 1960)

Since the above publication is difficult to be found, Grupo de Montaña Perros Alpinos, Expediciones Extranjeros en Chile (<http://www.perosalpinos.cl>) are substituted as follows:

2-1 [Expedición Chileno - Japonesa Andes Centrales 1960, Parte I, Valle del Río Yeso](#)

2-2 [Expedición Chileno - Japonesa Andes Centrales 1960, Parte II, Río Cipreses](#)

2-3 [Expedición Chileno - Japonesa Andes Centrales 1960, Parte III, Río Colorado](#)

3. Others Publications (in English)

3-1 Alpine Journal, London, UK

AJ, vol. LXV. Nov. 1960, No. 301 (pp241-243) Chilean Notes by Evelio Echevarria C. and Expeditions, 1961, pp372

[https://www.alpinejournal.org.uk/Browse\\_search.html](https://www.alpinejournal.org.uk/Browse_search.html)

3-2 American Alpine Journal, New York, USA

AAJ, Climbs and Expeditions (1960/p151-152)

<https://americanalpineclub.myshopify.com/collections/aac-publications>

3-3 The Andes: The complete history of Mountaineering in High South America, Reidhead Publishers, USA

Note:

Dr. Evelio A Echevarria, author of The Andes (Ref. 1 of Document A) reported in his book that the Geological Institution (including IGM, Chile) is under consideration of renaming certain peaks. The details are not known and no official comments from the related governmental agency is available on this matter. This subject has been studied in detail this time since certain peaks of our first ascent by

Expedition 1960 christened after the foreign city or country names which were said to be negative factor for keeping the original peak names.

This subject of renaming seems to be pure domestic matter particular to Chile and this problem is difficult for us to handle. The peaks climbed by us and listed in Summary Sheet of Review have been officially printed in Andinista Maps published by IGM, Chilean government agency. These maps have been used by climbers visiting the Chilean Central Andes for at least 20 years. Thus Combined Summary Sheet hereunder is drafted by using Table C (p44) and Summary Sheet (p45) published in Document A article excluding certain information related to renaming matter.

### Combined Summary Sheet of 1st Ascent Records – Expedition 1960

Exp. 1960	(1) Climb records		(2) Andinista Map	Details of Expedition Activities & Guides for Visitors	
	Co. & H (m)	1960	Upper: Co. & H (m)	Climbers	Climb Guides (where its information is posted)
Exp. 1 Yeso	Co. Kobe 5100m	2. 13	Co. Kobe, 5067m Tupungato 3315-6945/ E-061 Rio Yeso 3330-6945/ E-069	K. Claussen H. Toyoda	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/414/Kobe">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/414/Kobe</a>
Exp. 2 Rio Cipreses	① Co. Alto Cotón Norte 4350m	3. 12	Co. Alto Cotón Norte, 4086m Rio Cortaderal 3415- 7015/F-017	A. González N. Ota H. Tanba	Not posted in Andeshandbook. This ascent was reported in Chile "Expedición C-J Andes Centrales 1960"(Etapa II -Rio Cipreses/60.3.12). <a href="https://www.perrosalpinos.cl/RH-chilenojaponesapartedos.html">https://www.perrosalpinos.cl/RH-chilenojaponesapartedos.html</a>
	② Co. Cotón 4550m	3. 11	Co. Cotón, 4292m Alto de los Arrieros 3430-7005/F-027	W. Foerster A. González H. Toyoda	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/944/Coton">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/944/Coton</a>
	③ Co. Chile -Japón 4450m	3. 6	Co. Chile Japón, 4186m (- do -)	W. Foerster, F. Rosales, H. Toyoda	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/1078/Chile_Japon">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/1078/Chile_Japon</a>
Exp. 3 Colorado Valley	① Co. Altar 4518m	3. 25	Co. Monjas, 4506m Rio Leones 3230-7005/ E-039	G. Mills, G. Muga M. Puig, H. Tanba	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/267/Altar_de las Monjas">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/267/Altar de las Monjas</a>
	② Co. Amarillo 5136m	3. 25	Co. Piloto, 5064m (- do-)	J. Bocaz H. Durand N. Ota	Not posted in Andeshandbook. This ascent was reported in Chile "Expedición C-J Andes Centrales 1960"(Etapa III-Río Colorado/60.3.25). <a href="http://perrosalpinos.cl/RH-chilenojaponesapartetres.html">http://perrosalpinos.cl/RH-chilenojaponesapartetres.html</a>
	③ Co. Columpios 4200m - N.(North)	3. 29	Aguja de los Columpios del Diablo, 4330m Map: Rio Rocin/ Andeshandbook*	P. Durand N. Ota H. Tanba	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/515/de los 'Columpios del Diablo">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/515/de los 'Columpios del Diablo</a>
	④ (- do -) - S.(South)	3. 29	Torre de los Columpios del Diablo, 4323m Map: R.Rocin/ Andeshandbook*	H. Durán G. Mills G. Muga M. Puig	<a href="https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/516/de los Columpios del Diablo">https://www.andeshandbook.org/montanismo/cerro/516/de los Columpios del Diablo</a>

Note: Since Peak\* is located outside of the area covered by Andinista Map (FT-1), this peak data is referred.  
This Sheet is a combination of Table C (p44) and Summary Sheet (p45)

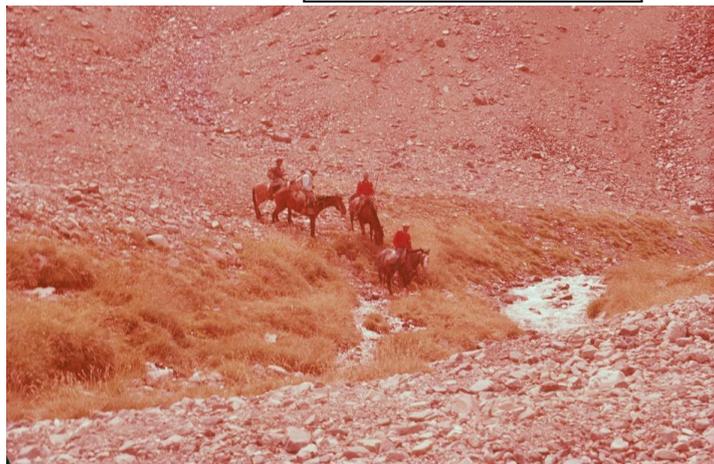
(Hisao TOYODA, member of ACKU, June, 2022)

Yeso 谷 1960.2.2-2.20

Document C- I



Y-1 キャラバンの出発点 C.ロラーダ鉱山  
(サンチアゴからの陸路到着点)



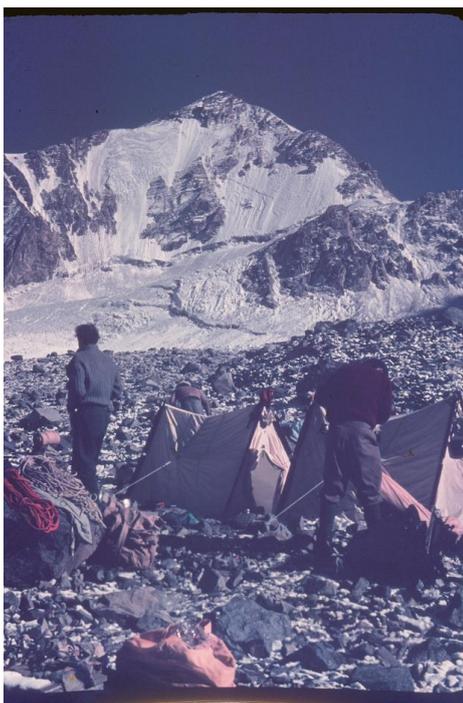
Y-2 同上途中の水場 (vega) でラバに給水



Y-3 イエソ谷モレーンをボッカ  
(丹波・クラウセン・バスケ)



Y-4 イエソ谷 BC 谷奥の C. Blanco が見える



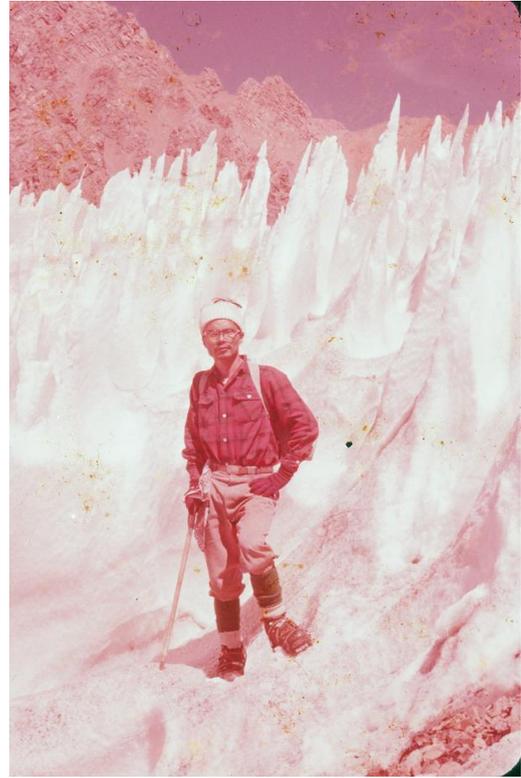
Y-5 C1 から Cuerno Blanco (5030m) を望む



Y-6 C. Blanco 南面の氷河を上る



Y-7 C. Blanco 中腹より見た Co. Bello(5200m)



Y-8 チリ中央アンデスでは氷河は乾燥のためペニテンテ化している



Y-9 同上氷河のペニテンテ氷柱は1.2~1.5mまで成長している



Y-10 同上氷河のテーブルストーン



Y-11 C. Blanco 南面氷河を上る



Y-12 チリ中央アンデスの山々 (東北方面を見る)



Y-13 クラウセンと共に



Y-14 C. Blanco 頂上から見た無名峰 (5100m)



Y-15 同上無名峰東南陵の氷結クロワールを登る  
パートナー・クラウセン



Y-16 同峰をセロ・コーベ (5100m) と命名  
(1960.2.13)



Y-17 サリィリヤス谷をマルモレホ峠に向かう



Y-18 マルモレホ峠にて



Y-19 マルモレホ峠 (4000m) のキャンプ地



Y-20 高所キャンプ (5500m) から  
マルモレホ峰 (6100m) に連なる氷雪原



Y-21 マルモレホ頂上から北に連なるアンデスの主稜線/  
東はアルゼンチン領の雪氷原

**Rio de los Cipreses 源流域 1960.2.27-3.14**



R-1 シプレセス川に沿いきャラバンを進める



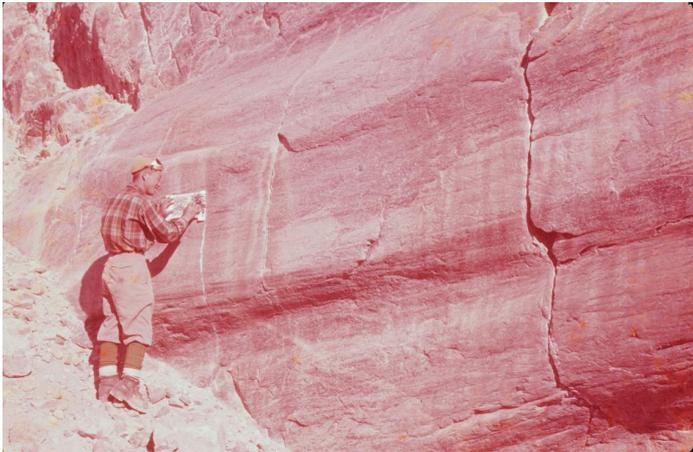
R-2 同上 (馬方2人・ラバ18頭)



R-3 ビダ鉱泉近辺で野営



R-4 シプレセス川底で氷河の痕跡を調べる太田 L



R-5 同上 太田 L



R-6 前進 BC への移動中の昼食ー丹波他



R-7 シプレセス氷河の頭



R-8 シプレセス氷河上の前進 BC



R-9 シプレセス氷河の南側を見る



R-10 シプレセス氷河の東側（H.クルス博士峰）を見る



R-11 シプレセス氷河のクレパス



R-12 シプレセス氷河を南下する



R-13 シプレセス氷河を北上する



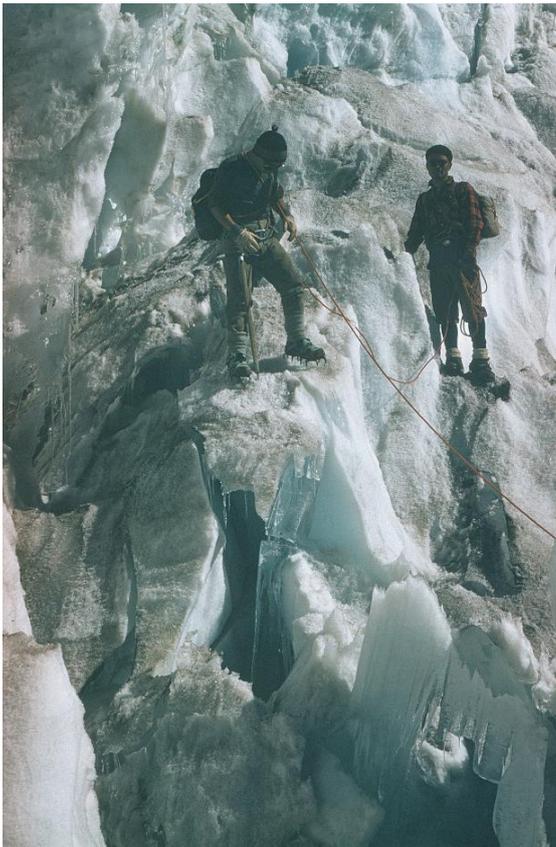
R-14 シプレセス氷河の西陵氷河を登る



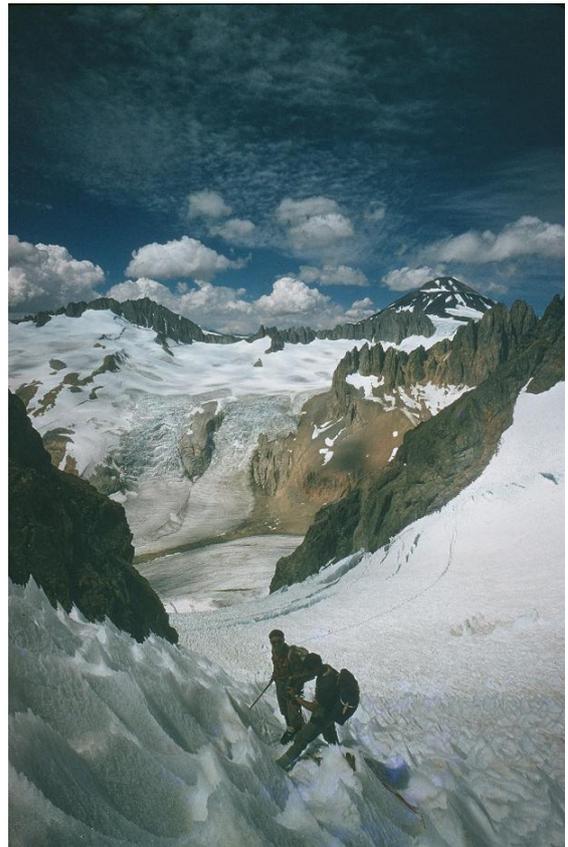
R-15 シプレセス氷河の北東を見る



R-16 シプレセス氷河を俯瞰（北東方向）する



R-17 シプレセス氷河の西陵をロサーレスと登る



R-18 同上 西陵氷河を登る



R-19 無名未踏峰（4450m）を日智鋒と命名/豊田一フェルスター・ロサーレスと共に(1960.3.6)



R-20 シプレセス氷河の東陵



R-21 チリアンデスの主稜に連なる山々  
(北東方向を見る)



R-22 シプレセス川流域の flora (名前不詳)

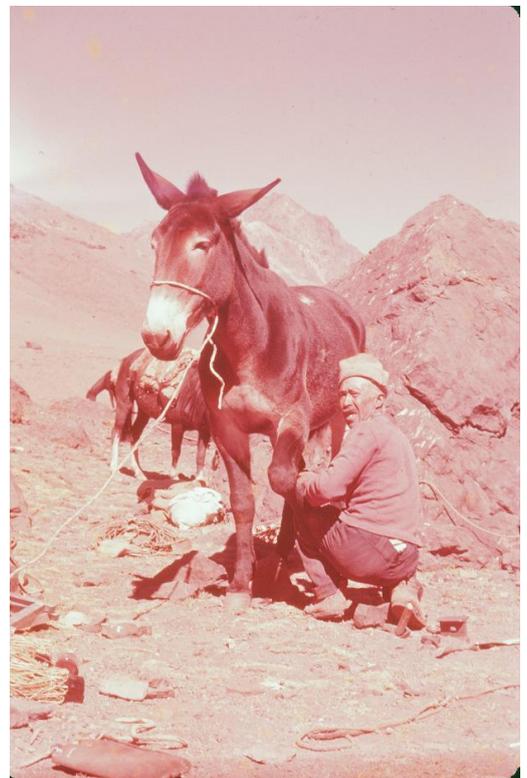


R-23 シプレセス川流域の flora  
(田中薫・教養部奥田両教授の依頼で撮影)

**Colorado 谷の遡行と源流の山々 1960.3.19-4.4**



C-1 コロラド谷のキャラバン



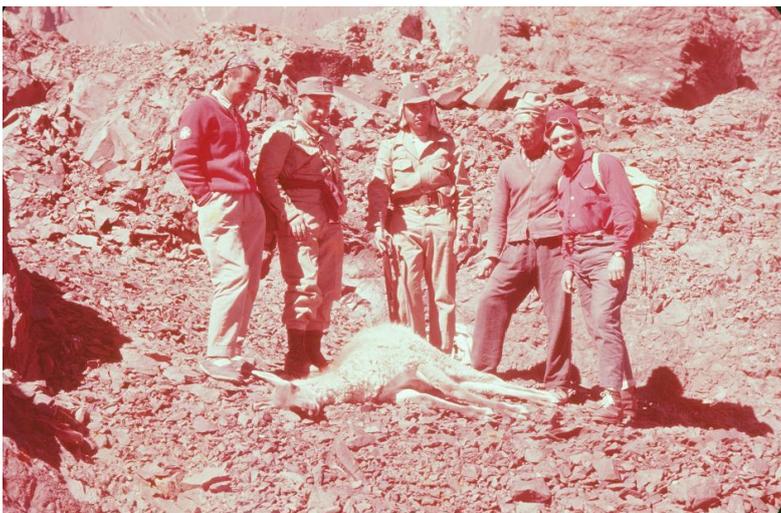
C-2 ラバ 24 頭をまとめるのは  
馬方マニユエルである



C-3 キャラバンは深い溪谷の断崖の道を行く



C-4 すでに初冬に入った新雪の斜面を登る



C-5 陸軍山岳学校派遣の伍長が射止めたグアナコ



C-6 射止めた獲物に喜ぶ同ボカス中尉と太田 L



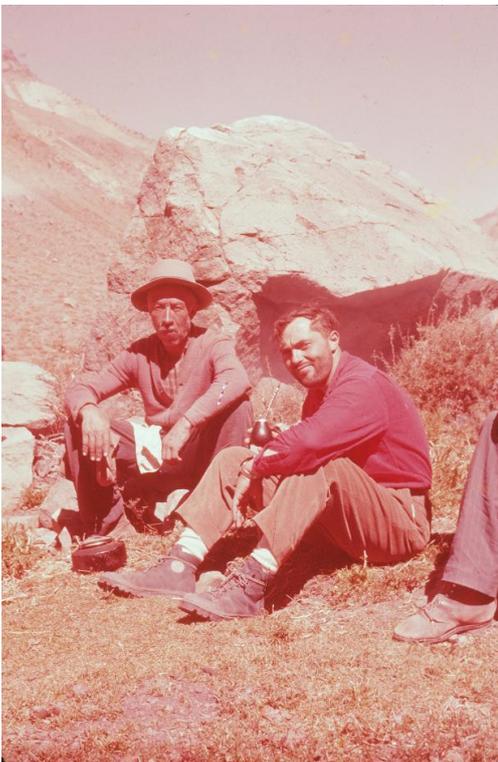
C-7 伍長は鷲1羽も撃ち落とした



C-8 国境の無名峰 (5136m/太田)・(5126m/太田)・  
(4518m/丹波) の初登



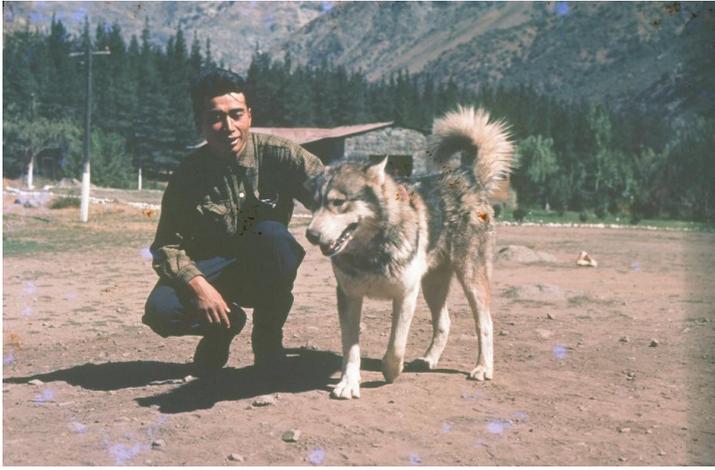
C-9 いずれの登攀でもアルゼンチン領のアコンカグアが迫ってくる



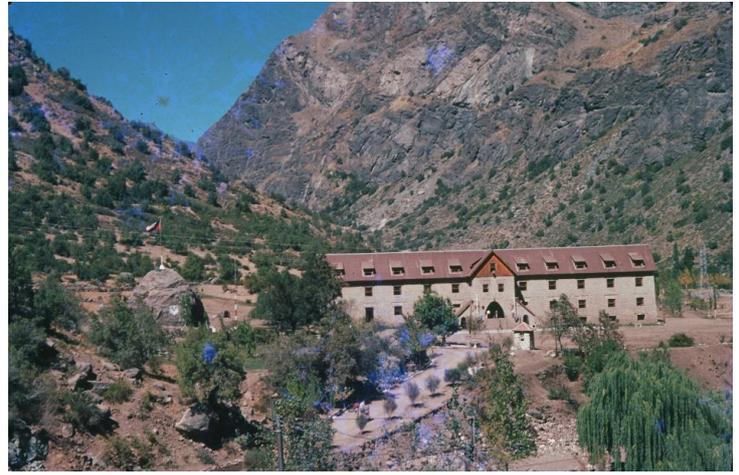
C-10 コロラド谷山行チリ側リーダー・  
ミルスと馬方マニュエル



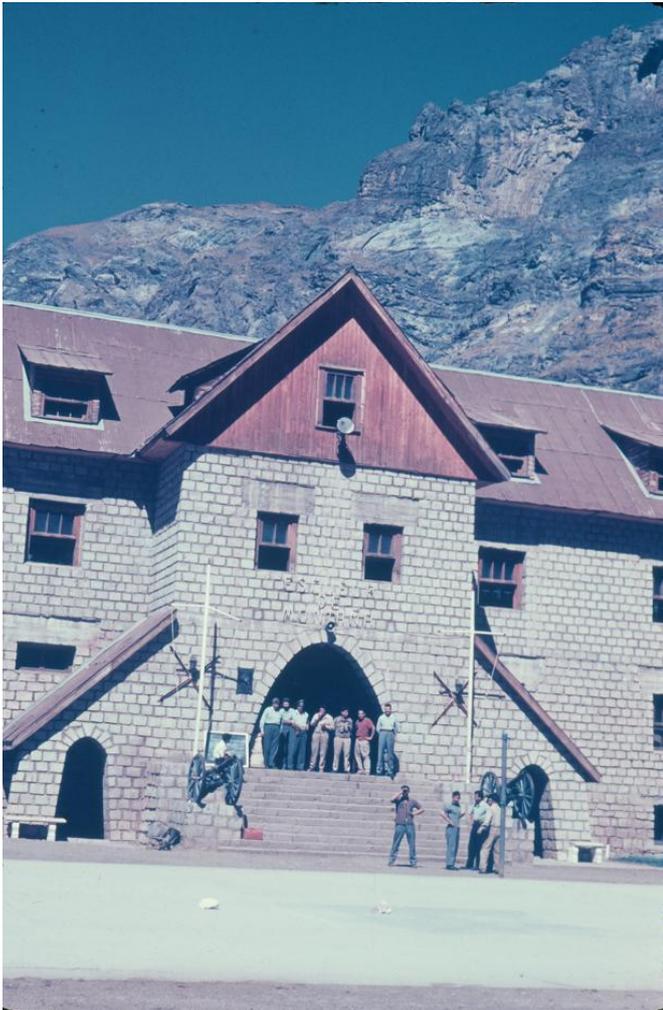
C-11 同山行日チ全メンバー



C-12 M馬方の愛犬（山行に同行）と丹波



C-13 全員が酒宴に招待された陸軍山岳学校全景



C-14 同校正面玄関

第2次日子遠征まとめ(Climb Records)

山群	登頂山岳	1960	登頂者
第1 山行 (Y)	Co. C.Blanco, 5200	3. 13	太・豊
	Co. Kobe, 5100*	2. 13	豊田
	Co. Bello, 5200	2. 14	丹波
	Co. Marmolejo, 6100	2. 20	全員
第2 山行 (R)	Co. C-Japón, 4450*	3. 6	豊田
	Co. Cotón, 4550*	3. 11	豊田
	Co. A.Cotón N, 4350*	3. 12	太・丹
第3 山行 (C)	Co. Amarillo, 5136*	3. 25	太田
	Co. Expedición, 5126*	3. 25	豊田
	Co. Altar, 4518*	3. 25	丹波
	Nev. Leiva, 4669	3. 26	丹波
	Co. Columpios, 4200		
	- N.(北峰)*	3. 29	太・丹
- S.(南峰)*	3. 29	Chile	

注: \*印の山名は初登(First Ascent)

Note: At right-end the climbers are shown:  
太田(Ota), 丹波(Tanba) & 豊田(Toyoda)

以上

**List of translated captions (English) for Climbing Photos**  
**– Expedition 1960 –**

Valle del Rio Yeso

- Y-1 Start of Caravan at Rodada Mine (Terminal Depo of the overland access from Santiago)
- 2 Feeding mules with water at las vegas
- 3 Portage along the moraine of Glacier Bello in Yeso Valley
- 4 Base Camp in Yeso Valley with the view of Co. Cuerno Blanco
- 5 View of C. Blanco (5030m) from Camp I
- 6 Passing through Gl. Bello along Southern edge of C. Blanco's *serac* zone
- 7 View of Co. Bello (5200m)
- 8 Toyoda with Nieve Penitente (ice needle)
- 9 Same as Y-8 (ice needles grew as tall as 1.2 - 1.5m in Chilean Central Andes)
- 10 Table stone in Gl. Bello
- 11 Ascending Gl. Bello on South Wall of C. Blanco
- 12 N-East view of the mountains in Central C. Andes
- 13 Toyoda with K. Claussen, Chilean Leader
- 14 Unnamed Peak (5100m) from the summit of C. Blanco
- 15 Partner Claussen climbing ice covered *couloir* along the S-East ridge  
 (Decent root took many hours before arriving at the col for *vivouac* /1960.2.13)
- 16 The peak was christened Co. Kobe in commemoration of Kobe University in Japan
- 17 Transfer caravan through Salillas Valley to Marmolejo Pass
- 18 Mules around Marmolejo Pass (4000m)
- 19 Camp site (4000m) at Marmolejo Pass
- 20 Crossing a crevasse on the ice plateau between High Camp (5500m) and Co. Marmolejo (6100m)
- 21 Chile - Argentina Border with ice and snow covering the slope of Argentine side

Rio Cipreses

- R-1 Caravan through the trail along Rio de los Cipreses
- 2 18 mules were led by 2 Arrieros
- 3 Camping at Agua de Vida Mine
- 4 Surveying the glacier vestiges along Rio Cipreses Valley
- 5 Ota made a rubbing of the ancient glacier
- 6 Tanba et al were taking a lunch on their way to Advance Base Camp
- 7 Co. Alto de los Cipreses with the overhang glacier
- 8 Advance Base Camp on Gl. Cipreses

- 9 Upstream (South) view of Gl. Cipreses
- 10 East ridges of Gl. Cipreses Valley with Co. Dr. H. Cruz in the back
- 11 Crevasse of Gl. Cipreses
- 12 Going South along Gl. Cipreses
- 13 Going up to North on Gl. Cipreses
- 14 Passing through the ice fall covering West ridge slope
- 15 N-East ridges of Gl. Cipreses Vally
- 16 Bird's-eye view of S-West part of Gl. Cipreses Vally
- 17 Climbing through the ice fall of West ridges (Toyoda et al)
- 18 Passing through Nieve Penitente slope (ditto)
- 19 Toyoda with Forster & Rosales at the summit of an unnamed peak (christened Co. Chile-Japón 4450m/1960.3.6)
- 20 East ridges seen from the opposite side which formed the branch peaks to Border mountains
- 21 View of East ridges with Volcan Paloma in their back
- 22 Flora in Central C. Andes (name unknown)
- 23 Ditto (these pictures were taken as per request of Kobe University researchers)

### Rio Colorado

- C-1 Caravan through the highland up in the tributary of Rio Colorado
- 2 Arriero Manuel who managed 24 mules with his assistant
- 3 Caravan went through the trail high up of Rio Colorado Canyon
- 4 Climbing the ridge through the slope covered with fresh snow
- 5 Guanaco shot by the border guard with us
- 6 Teniente Bocaz & Ota were excited by a big game
- 7 Border guard shot a condor too
- 8 Continuation of ridge climbing from the preceding picture C-4
- 9 During each climb we were overwhelmed by Mt. Aconcagua (6960m) of Argentina
- 10 Chilean Leader G. Mills with Arriero Manuel
- 11 Members of Chile-Japan Expedition to Rio Colorado Valley
- 12 Tanba with Manuel's dog
- 13 Mountain School of Chilean Army (Military style drink party was held in its bar)
- 14 School entrance

### Note:

The outline of climbing activities in Joint Expedition to Chilean Central Andes-1960 are presented in Table at the end of Photo pages and the final results are in Summary Sheet of 60th Anniversary Review. Co. Expedición in Part III has been deleted due to the border problem.

## SANGAKU

The Journal of The Japanese Alpine Club

Vol. LVI

Issued in January, 1962

## Contents

(in English)

Himalchuli, 1960.....	By Jiro Yamada.....	1
The Ascent of Noshag.....	By Toshiaki Sakai.....	3
Api Climbed, 1960.....	By Yasusuke Tsuda.....	4
Jugal Himal, 1960.....	By Hisayuki Ito.....	7
Punjab Himalaya Expedition, 1960.....	By Sadako Hosokawa.....	9
→ Chilean Central Andes, 1960.....	By Hisao Toyoda.....	10
Journey for Yamato Mountains.....	By Koshiro Kizaki.....	12

## Chilean Central Andes, 1960

By Hisao Toyoda

I would like to report the outline of the Chilean-Japanese joint Expedition to the Chilean Central Andes, 1960. Federación de Andinismo y Excursionismo de Chile and the Alpine Club of Kobe University, Kobe, Japan organized a joint expedition party to the unknown zone of the Chilean Central Andes in order to promote not only mountaineering technique but friendship between Chile and Japan.

During the expedition, we ate Chilean food and used equipments manufactured in Japan. Before the expedition our great concern was that of the problem of leadership and membership, because many failures of international expeditions had shown us this difficulty. In our case, however, we could completely overcome all kinds of misunderstandings which arose owing to the difference of languages, customs and way of living. We could complete the expedition successfully and not only learned the technique of mountaineering but also could establish goodwill between our countries.

The 1st Expedition : To the Yeso Valley (February 2—Feb. 22, 1960.)

Chilean Group : Kurt Claussen (Leader) and other four members.

Japanese Group : Naoyuki Ota (29 years old, Leader)

Hiroshi Tanba (26 years old)

Hisao Toyoda (22 years old)

As is well known, the climate in summer is quite mild and dry in this central part of the Chilean Andes. Therefore the glaciers are neither vast nor dangerous to pass through because of the dry climate. The two days caravan of 22 mules led by two muleteers started from Careda Lodara Mine for the Base Camp (3600 m) at the end of the Glaciar Bello.

The dry climate enabled us to do without the tents and sleep in the open all through the night and we dreamed many beautiful dreams under the Southern Cross. From Camp II on the Glaciar, we climbed the Cerro Kobe (5100 m, 1st Ascent), Cerro Bello (5200 m, 2nd Ascent) and Cerro Marmolejo (6100 m). Cerro Kobe is a beautiful mountain crowned with ice and snow. We named it in commemoration of Kobe University. Climbing was not so difficult but the route was quite dangerous because of its frail rocks.

We spent wonderful days wandering about virgin peaks day after day.

Our 2nd Expedition : To the Cipreses Valley (Feb. 27—March 14, 1960.)

Five Chileans (Leader Alnardo Gonzalez) and three Japanese.

Ours was the second party that explored this zone. The map was not correct and even the muleteers did not know the topography of this part. It was a long but wonderful caravan through woods of cypress.

In this region there are no high mountains above 5000 m, but the glacial topography was very characteristic of the Chilean Central Andes. The Cipreses Glaciar is vast and the mountains are small and their walls are sharp as the result of erosion by ice. Route-finding on the Glaciar was awful difficult and fatiguing because of "Nieve Penitente" (ice-needle, characteristic phenomenon of the glaciers in the Chilean Central Andes).

It was a wonderful climbing basking in plentiful sunshine. We climbed these three virgin peaks.

Cerro Chile-Japón (4450 m)

Cerro Cotón (4550 m)

Cerro Alto Cotón Norte (4350 m)

Our 3rd Expedition : To the Colorado Valley (March 19—April 4, 1960)

Five Chileans (Leader : German Mills)

Two officers from the Mountain School of Chilean Army.

Three same Japanese

In this northern desert of Chile, the characteristics of the mountains are their frail rock and desolate scenery. The glaciers are rather small affected by the dry climate.

At the Rio Colorado Station of the Chile-Argentine International Railway we had to abandon the automobiles and ride on the back of mules for many days to pass through dangerous cliffs.

From the Base Camp on the Leiva Pass near Mt. Aconcagua, we made many ascents :

Cerro Expedición (1st Ascent, 5126 m)

Cerro Amarillo ( " 5136 m)

Cerro Altar ( " 4518 m)

Cerro de los Columpios ( " 4200 m)

Nevado Leiva (2nd Ascent, 4669 m)